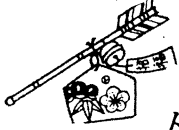


第 17 号

平成 22 年 1 月 8 日  
甲斐市立 敷島中学校  
発行責任者 長田和人

# けい あい Ⅱ



トラは千里を駆ける！  
地を駆けるトラのように 思いっきり飛躍しよう！

「新年明けましておめでとうございます。」

山梨では例年になく“穏やかな日”が続いた年末年始でしたが、生徒たちは、新しい希望を胸に楽しい冬休み？を過ごしたことと思います。

さて、冬休みが終わった今日、生徒たちは全員元気よく登校してきました。始業式では、各学年代表の生徒が「新たな決意」をしっかりと発表しました。全ての生徒たちにとって、それぞれの思いを新たに、3学期のスタートがうまくきれるように支援していきたいと考えています。



「一日の計は朝にあり。」「一年の計は元旦にあり。」「一生の計は少壮の時（若く元気な時）にあり。」…と言われますように、失敗を恐れずにできることが若さの特権です。大きな理想を持ち、小さな目標を一つずつ達成して行ってほしいと思います。

3学期は、他の学期に比べて短い学期ではありますが、学年のまとめとしてとても大切な学期です。一日一日を大切に、しっかりと一年のまとめをしていかなければならないのです。

さて、もう少しすると、「冬」という季節からぬけだし、“甲斐の里”にも「春」がやって来ます。「春」という季節は、万物が生き生きと地上によみがえり、自然を彩り始める時です。冬枯れの寂しさから一転し、正に「陽の気」に転じていきます。生きとし生けるもの、生命力のあるものはこの時とばかりに活動を始めるのです。人間の世界も同じです。万物移り変わりの中に、一時でも早く、この「春」取り入れようとしします。正に、「生きている」ということの“証”なのです。

自然は、生命を大切にします。それに、秩序を大切にします。相手の生命力を損なったり、順序を間違えることなど決してありません。全く不思議な知恵といえます。これを自然の摂理といいます。私たち人間は、この自然界の摂理をしっかりと受け止めて、新しい希望にあふれた年としなくてははいけないと思います。

◇ 3年生にとっては、いよいよ『入試』が始まります。予定表には ☆☆高校入試 の文字がズラッと並んでいます。この日を待ちかねていた人もいたことでしょう。しかし「いかに全力を尽くした」と言っても、なかなかそんな“心のゆとり”は生まれてこないのが当たり前なのです。

気を引き締めて、じっくりとあせらずに取り組んで、「徒然草」にもあるように『こころして 下りよ!』の精神でこの3学期を過ごして下さい。

「寒」についての言い伝え！ 昔からの“風習”を大切に

1月21日は「大寒」と言って昔から一年中で最も寒い日とされています。1月6日を「小寒」と言ってこの日から「寒」が始まります。そして、2月4日の「立春」に寒が明けます。「小寒」から「立春」までの30日間を「寒」と言って、一年中で一番寒い時期となっています。今回はこの「寒」について昔からの言い伝えをお話しします。

毎年、どこの地域でも、年の始めに「日よりさだめ」と言って色々なやり方でその年の天候の様子を占ったそうですが、その中で有名なのは「寒試（かんだめし）」です。これは、小寒から始まって立春までの30日間を2日半ずつ刻んでいきます。そうすると30日を12に分けることができます。その12に分けた一つ一つが一年12ヶ月の天候を表すものとして天候の様子を占ったのだそうです。例えば1月6日、7日と8日の半日で1月のことについて占うのだそうです。

昔は、今のように科学が発達していなかったもので、自然の現象を調べて色々なことを判断しました。そしてこのことは科学が発達した今でも、昔からの風習として活用していることが多いのです。

今年もよろしくお願ひいたします。！ 敷島中学校教職員一同

